

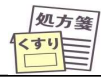
2泊3日 大腸肛門外科 化学療法（入院治療計画書）

ID: @PATIENTID患者氏名: @PATIENTNAME様生年月日: @PATIENTBIRTH2 (@PATIENTBIRTH)病名(症状):

入院科/病棟: @USERBELONGSECTION / @PATIENTWARD主治医: @主担当医印担当医: @担当医1

担当看護師: @担当看護師主治医以外の担当者: 薬剤師管理栄養士

作成日2016年5月26日

経過	化学療法 1日目	化学療法 2日目	退院日
月日	月日	月日	月日
達成目標	①治療開始後の注意点が、理解できる	①症状を言葉に表現できる。	退院後の生活の注意点を理解できる。
治療・処置	・点滴は、ポートを埋め込んだ部位または腕の血管に針を刺して開始します。 ◆1本目に、吐気止めの点滴を行ってから、抗がん剤の点滴をつなぎます。 ◆血液検査の結果で、治療の点滴を開始します。 	 ◆抗がん剤の点滴をつなぎます。	・朝食前に体重を測ってください。 ・午前10時で尿量の測定は終了です。
検査	・身長、体重測定があります。 ・血液検査があります。 ・点滴開始時より、尿量を測定します。尿のため方を説明します。 	◆抗がん剤の点滴をつなぎます。	・点滴終了後、針を抜きます（午前中に終了予定）。 ◆針を抜いた2時間後より入浴できます。 ・お疲れさまでした。 ・医師の診察後に退院となります。 ◆次の入院予約日を確認しましょう
内服	・看護師が、持参薬を確認します。 ・普段服用しているお薬は、引き続きお飲みください。 	・退院後、不足しそうなお薬は、早めにお知らせください。 	 ・退院時処方をお受け取りください。 ◆効能、服用方法について説明しますので、確認してください。 
食事	・特に制限はありません。 （副作用に応じて栄養士が相談にお伺いします） 		
看護	・検温を行います（入院時、午後2時、午後7時）。 ◆検温の時間は多少前後することがあります。	・検温を行います（午前7時、午後2時、午後7時）。 ◆検温の時間は多少前後することがあります。	・検温を行います（午前7時）。 ◆検温の時間は多少前後することがあります。退院後の注意点 ◆感染防止に注意しましょう。外出後は、手洗い・うがい・心がけてください。
リハビリ			
説明・指導	・医師の診察があります（時間は決まっていません）。 （薬剤師より薬についての説明があります） ◆点滴中、長時間の歩行は避けましょう。 ◆しびれのある方は、転倒に注意しましょう。 ◆疲れない程度に行動しましょう。 ◆抗がん剤の副作用として、肝障害、骨髄抑制（貧血、血小板減少、白血球減少等）、発熱、消化器症状（食欲不振、下痢、胃炎等）などがあります。症状がある場合はすぐにお知らせください。 ◆骨髄抑制による白血球減少では、発熱する場合があります。これは、感染症を意味し抗生剤が必要になりますので、すぐにお知らせください。 ◆抗がん剤は、漏れると組織が壊死することがあります。針の入っている部位に、痛みや腫れを感じたり、テープがはがれた場合は、すぐにお知らせ下さい。	◆吐き気がある場合は、口当たりの良いものを少量づつ、また水分を多めにとってください。 ・わからないことがあれば、お聞きください。 	次のような症状がある時は、病院へ連絡しましょう ◆38度以上の熱が1時間以上続く ◆水分や食事がとれないほどの吐き気や嘔吐、食欲の低下がある。 目安：1日に500mlの水分（お茶、ジュース、汁物などを含む）が取れない。 ◆1日に5回以上の水のような便がでる。腹痛や嘔吐を伴う下痢がある。 連絡先 福島県立医科大学会津医療センター（TEL 0242-75-2100） 平日：8時30分～17時15分 外科外来 休日・祝日・夜間： 救急外来

★ 特別な栄養管理の必要性 ☒ 有 ・ 無

高齢者総合評価の実施 ☐ 有 : ☐ 無

総合的な機能評価

基本的な生活動作 ☐ 問題なし ☐ 要精査または要経過観察

日常生活動作 ☐ 問題なし ☐ 要精査または要経過観察

認知機能 ☐ 問題なし ☐ 要精査または要経過観察

気分・心理状態 ☐ 問題なし ☐ 要精査または要経過観察

注1: 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査などを進めていくにしたがって変わり得るものです。

注2: 入院期間については現時点で予測されるものです。

ご不明な点は遠慮なくスタッフへお尋ねください。

上記の説明を受け、治療内容を理解しました。

@SYSDAT2

説明者:

説明を受けた人: 続柄

(代表者)

公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院

バス承認番号 (No. 7) 承認年月日 (2016年6月9日)

<管理No. 88>